

- 氏名 : 大藪 敏彦  
○会員番号 : PEN-0224  
○専門分野 : プロジェクトマネジメント、品質マネジメント  
○保有資格 : PMI – PMP, Agile Certified Practitioner  
American Society for Quality –  
Certified Quality Manager, Supplier Quality  
Professional, Quality Engineer, Quality Auditor,  
Six Sigma Black Belt



FE 試験受験 : 2020/07

PE 試験受験 : 2021/10

## 1. 受験の動機

海外駐在経験はありませんが、以前より海外の顧客やサプライヤーと仕事する機会が多く、客観的に自身の力量を説明できる国際的な資格に高い関心がありました。

これまでプロジェクトマネジメントや品質マネジメントという個別の業務領域については、アメリカの関連団体が提供している資格制度を活用してきました。

しかし、より広義にエンジニアとしての資格を取得したいと考えるようになったことが、FEおよびPE試験受験の直接的な動機です。

また、これまで自身が従事してきた業務は、固有技術ではなく所謂管理技術に位置付けられる品質マネジメント、サプライチェーンマネジメント、プロジェクトマネジメントということもあり、本当にエンジニアと名乗って良いものかとの不安を払拭することが、Industrial and Systemの受験を決意した理由のひとつです。

## 2. 勉強の方法

FE試験合格記でも記載しましたが、MechanicalやCivilと異なり、Industrial and SystemはFE/PE試験の受験者・PE登録者が圧倒的に少なく、テキストや勉強法等の情報収集に苦戦しました。

インターネットで検索した結果以下の3つの書籍を購入しました。

- ① **Review for the Professional Engineers' Examination for Industrial Engineers 5<sup>th</sup> Ed.**  
(Daniel P. Rogers, W.J. Kennedy)
- ② **Sample Examination for the PE Branch Examination in Industrial Engineering 3<sup>rd</sup> Ed.**  
(W.J. Kennedy)
- ③ **PE Industrial and Systems Practice Exam (NCEES)**

試験の8ヶ月くらい前からまずは、①を用いて自己学習を始めましたが、CBT試験移行前の対策本であり、これが適切かとの懸念がありました。怒らく資料の持ち込みが前提なので、②や③と比較し、全体的に問題のレベルが高いと感じました。また、広域な試験範囲をテキストだけで学習するのは、モチベーションの維持が困難でした。

そのため、オンライン講座の受講を検討しました。講座も二択ほどしかなく、最終的には、School of PEのPE Industrial and Systems Exam Prep Course<sup>\*1</sup>を活用しました。これは、主に出題範囲毎に必要な知識の概略説明と問題の解説をレクチャー方式で提供するというものでした。私は、オンデマンドのレクチャーを選択しましたが、希望すればライブのレクチャーもあり、ここでは都度チャットで質問ができますようです。私自身が最も苦手としていた“Work Design”分野の問題が少なかったのは多少不満ですが、それ以外の分野では50問以上は練習できたので、出題の傾向と自身の強みと弱みを理解することはできました。

最後の2ヶ月は、オンライン講座の問題、既述の②と③のサンプル問題を回答することに集中しました。合格基準は公表されていませんが、70%程度正解すれば合格するだろうと腹をくくり、いかに解ける問題を試験当日に取りこぼさないかという点に焦点を当てました。結果的には、3回くらいは問題を解いて、80%程度の正解できるところまではこぎつけました。

\*1 <https://www.schoolofpe.com/peindustrial/>

### 3. 試験当日について

FE試験同様に、受付が早い時間帯だったので東京のPearson Professional Center付近に前泊し、当日は十分に余裕をもって受付を行いました。受付で順番待ちが長くなると気持ちが焦ってくるのでできるだけ早めに受付を済ませることをお勧めします。当日はPE試験受講者が私を含めて5名程度いたようでした。

試験自体は、タイムマネジメントが重要な要素ですが、Industrial and Systemの場合は、計算問題が50-55%程度なので、そこまで時間が足りないということはないかと思います。むしろ、長時間になると集中力が低下するので、ScheduleとUnscheduledの休憩をうまく活用することも、最後まで全力で乗り切るためのポイントになるかと思います。

私の場合には、まず高い確率で正解がとれる問題を先に解答することを意識して、前半も後半も、まずすべての問題に目を通すことにしています。問題の解く順番は、①非計算問題で直ぐに解答できる問題、②計算問題で直ぐに解答の導き方がイメージできる問題、③計算問題でReferenceと問題を行ったり来たりしながらなんとか解答が導ける問題、④残りの問題、でした。解答の検討がつかない問題や、計算に時間を要する問題は後回しにして、点数がとれる問題を先行して答えることが重要です。どうしても解答できない問題もありますが、選択式であり、間違っても減点される訳ではないので、いずれかをマークすることは必須です。

結果的に2時間強時間が余りましたが、それでもかなり疲弊していたこと、これ以上考えても点数の上積みは期待できないこと、目指していた70%の正解率は確保できたという期待により、時間を残して退出しました。

### 4. 今後について

受験から1週間後に、無事合格であることが確認でき、一安心しました。

今後は、JPSEの皆さまからのご協力も仰ぎながら、州登録に向けた準備を進めていきます。

また、その過程で、JSPEの活動に参加するなど、情報の収集や知識の向上を図って参りたいと思います。

以上